

Title	『慶應義塾大学日吉紀要・自然科学』執筆要領
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会
Publication year	2022
Jtitle	慶應義塾大学日吉紀要. 自然科学 (The Hiyoshi review of natural science). No.69 (2022. 10)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10079809-20221030-0077

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

『慶應義塾大学日吉紀要・自然科学』執筆要領

1. 書式

- (1) 原稿は、横書きとし、A4判の用紙（縦使い）に印字し、一部を提出する。和文論文1段組のときは1行42字で印刷される。
- (2) 和文原稿は新仮名使いとし、なるべく常用漢字を用い、外来語と生物の和名は片仮名とする。
- (3) 原稿第1頁目は、別紙（原稿第1頁の書き方）の例にならって、記入する。脚注部も、別紙例や既刊論文にならうこと。著者が複数で所属が異なる場合は、各人に¹⁾、²⁾、³⁾…を付けて区別し、脚注に所属を明記すること。単独の場合や、複数でも同一所属の場合は不要。
- (4) 原著論文の構成は各分野の慣習に従うが、①要約 (Summary)、②序文 (Introduction)、③材料と方法 (Materials & Methods)、④結果 (Results)、⑤考察 (Discussion)、⑥謝辞 (Acknowledgements)、⑦引用文献 (References) から成ることが望ましい。要約は欧文とし、150語前後で内容を簡潔にまとめ、最大6個のKey wordsを付ける。原著論文以外の報文も、欧文表題を必ず付け、欧文要約があることが望ましい。欧文原稿の場合は和文表題を付ける。
- (5) 欧文論文・欧文要約の著者名は、Yukichi FUKUZAWAのようにし、題名はOld Records of Uncommon Animals in Japan…のように、名詞・形容詞などの最初を大文字にすること。

2. 図版・写真

- (1) 図および表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」などの要領により記入）、図、表明および、説明ならびに出典などを記し、本文原稿の欄外には、それぞれの挿入箇所を指定するものとする。
- (2) 写真は、写りの明瞭なもので、図および表の扱いに準じて通し番号、説明を付けた上、挿入箇所を指定するものとする。
- (3) 図・表・写真は、電子媒体およびメールにての投稿も受け付けるが、同時に紙に印刷したものも提出するものとする。
- (4) カラー印刷が必要な場合は、応募段階で編集代表に申し出て、協議される。

3. 注・引用文献

文献は本文に引用したものに限り、文献の並べ方の様式は各分野の慣習に従う。個々の文献の記載例を下に掲げるが、各分野の慣習に拠ってもよい。また、文献の表題は省略してもよい。

〔雑誌〕

磯野直秀（2006）タコノマクラ考：ウニやヒトデの古名，慶應義塾大学日吉紀要・自然科学編，

39号, 53-79. [「巻」の表示の雑誌はゴシック数字のみで可]

Kodama M. and Omote M. (2005) Studies on the shadow III (the Earth's shadow), The Hiyoshi Review of Natural Science, Keio University, 38, 57-66.

[書籍]

竹脇 潔 (1978) 無脊椎動物の変態, 日本発生生物学会編『変態の生物学』, 1-34, 岩波書店。

Nordlund J. J., Boissy R. E., Hearing V. J., King, R. A., Oetting W. S. and Ortonne, J. P. (2006) The Pigmentary system, Blackwell publishing.

Bergel, D. H. & Shulz D. L. (1971) Arterial elasticity and fluid dynamics. In “Progress in Biophysics and Molecular Biology”, Vol. 22, pp. 3-36, eds. J. A. V. Butler & D. Noble, Pergamon Press.

4. 原稿提出時とその後の注意

- (1) 原稿を提出するときは指定の「編集用カード」(別紙)を添付すること。
- (2) 紙媒体と同時に電子媒体 (FD, CD, メールなど) も提出すること。そのとき, 氏名, 使用機種など必要事項が分かるように記載すること。
- (3) 再校までは著者が行なう。原稿, 原図などは, 著者に返却されるものとする。

(2006年10月17日の自然科学部門会において承認・改訂)